

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【四半期会計期間】	第200期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)
【会社名】	株式会社四国銀行
【英訳名】	The Shikoku Bank, Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 野村直史
【本店の所在の場所】	高知市南はりまや町一丁目1番1号
【電話番号】	高知(088)823局2111番
【事務連絡者氏名】	取締役総合企画部長 山元文明
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区内神田1丁目14番4号 株式会社四国銀行東京事務所
【電話番号】	東京(03)3291局7481番
【事務連絡者氏名】	東京事務所長 二宮康高
【縦覧に供する場所】	株式会社四国銀行徳島営業部 (徳島市八百屋町3丁目10番地2) 株式会社四国銀行松山支店 (松山市三番町3丁目9番地4) 株式会社四国銀行東京支店 (東京都千代田区内神田1丁目13番7号) 株式会社四国銀行高松支店 (高松市丸亀町8番地23) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 東京支店・高松支店は金融商品取引法の規定による縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜のため縦覧に供しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成24年度 第1四半期連結 累計期間	平成25年度 第1四半期連結 累計期間	平成24年度
		(自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日)	(自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日)	(自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日)
経常収益	百万円	15,754	12,764	48,951
うち信託報酬	百万円			0
経常利益(は経常損失)	百万円	2,421	3,721	8,993
四半期純利益(は四半期純損失)	百万円	1,374	2,549	
当期純利益	百万円			4,093
四半期包括利益	百万円	2,413	1,753	
包括利益	百万円			10,139
純資産額	百万円	99,485	109,125	111,523
総資産額	百万円	2,625,755	2,726,176	2,704,941
1株当たり四半期純利益金額(は1株当たり四半期純損失金額)	円	6.36	11.81	
1株当たり当期純利益金額	円			18.96
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円		11.79	
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円			18.94
自己資本比率	%	3.69	3.90	4.02
信託財産額	百万円	34	32	32

- (注) 1 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2 1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、平成24年度第1四半期連結累計期間は潜在株式がなく、また、1株当たり四半期純損失となっているため記載しておりません。
 4 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。
 5 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係る信託財産額を記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は提出会社1社であります。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。なお、連結子会社である四銀ビジネスサービス株式会社(銀行業セグメント)は、平成25年6月30日をもって解散し、清算手続き中であります。また、連結子会社である四銀キャピタルリサーチ株式会社(その他セグメント)は、平成25年6月28日をもって社名を株式会社四銀地域経済研究所に変更いたしました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当ありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、海外経済が徐々に持ち直しに向かっていることを背景に輸出や生産が緩やかに増加し、企業業績の改善に伴い設備投資は一部に持ち直しの動きとなり、住宅投資も増加する等、景気は回復に向けた動きとなりました。

当行の主要地盤であります四国地区の経済におきましても、公共投資や住宅投資は増加し、生産や個人消費も持ち直しの動きがみられる等、全体として緩やかな持ち直しとなりました。

金融面では、円・ドル相場は期首の93円台から一時103円台まで円安が進行しましたが、期末には99円台となりました。日経平均株価も期首の1万2千円台から一時1万5千円台まで上昇しましたが、期末には1万3千円台となりました。一方で、長期金利は期首の0.5%台から0.9%台まで上昇し、期末には0.8%となりました。

このような金融経済情勢のもとにありまして、当行グループ(当行、連結子会社及び持分法適用会社)は業績の向上と経営の効率化に努めました結果、当第1四半期連結累計期間におきまして次の業績をあげることができました。

主要勘定につきましては、譲渡性預金を含めた預金等は、個人預金の増加等により、前連結会計年度末比163億円増加し2兆4,983億円となりました。また、公共債・投資信託・個人年金保険等の預り資産は、個人年金保険等の増加により、前連結会計年度末比4億円増加し3,107億円となりました。貸出金は、事業性貸出金等の減少により、前連結会計年度末比299億円減少し1兆5,480億円となりました。有価証券は、投資環境や市場動向に留意しながら安全性・流動性を重視した運用に努めました結果、前連結会計年度末比26億円増加し7,847億円となりました。

損益につきましては、経常収益は、国債等債券売却益の減少等により、前年同連結累計期間比29億90百万円減少し127億64百万円となりました。経常費用は、貸倒引当金繰入額や株式等償却の減少等により、前年同連結累計期間比91億33百万円減少し90億43百万円となりました。この結果、経常利益は、前年同連結累計期間比61億42百万円増加し37億21百万円となりました。四半期純利益は、法人税等が前年同連結累計期間比21億33百万円増加しましたが、前年同連結累計期間比39億23百万円増加し25億49百万円となりました。

四半期包括利益は、その他有価証券評価差額金の減少等によりその他の包括利益は減少しましたが、少数株主損益調整前四半期純利益の増加により、前年同連結累計期間比6億60百万円改善し17億53百万円の損失となりました。

なお、セグメント情報ごとの業績の状況につきましては、報告セグメントは銀行業単一であり、記載を省略しております。

国内・国際業務部門別収支

(国内業務部門)

資金運用収支は、資金運用収益が貸出金利息の減少等により前年同連結累計期間比3億78百万円減少し、資金調達費用が預金利息や社債利息の減少等により同1億29百万円減少したため、同2億48百万円減少し77億79百万円となりました。

役務取引等収支は、役務取引等収益が前年同連結累計期間比1億9百万円増加し、役務取引等費用が同8百万円増加したため、同1億2百万円増加し12億74百万円となりました。

その他業務収支は、その他業務収益が国債等債券売却益の減少等により前年同連結累計期間比34億53百万円減少し、その他業務費用が同1億37百万円増加したため、同35億90百万円減少し3億73百万円となりました。

(国際業務部門)

資金運用収支は、資金運用収益が有価証券利息配当金の増加等により前年同連結累計期間比4億97百万円増加し、資金調達費用が同17百万円増加したため、同4億79百万円増加し7億35百万円となりました。

役務取引等収支は、役務取引等費用が増加したため、前年同連結累計期間比5百万円減少し7百万円となりました。

その他業務収支は、その他業務収益が前年同連結累計期間比73百万円減少し、その他業務費用が同1億40百万円増加したため、同2億12百万円減少し65百万円の支出超過となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	8,027	256	8,283
	当第1四半期連結累計期間	7,779	735	8,514
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	8,637	296	7 8,926
	当第1四半期連結累計期間	8,259	793	17 9,035
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	609	40	7 642
	当第1四半期連結累計期間	480	57	17 520
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	1,172	12	1,184
	当第1四半期連結累計期間	1,274	7	1,281
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,488	18	1,506
	当第1四半期連結累計期間	1,597	18	1,616
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	315	5	321
	当第1四半期連結累計期間	323	11	334
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	3,963	147	4,110
	当第1四半期連結累計期間	373	65	307
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	4,131	147	4,278
	当第1四半期連結累計期間	678	74	753
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	168		168
	当第1四半期連結累計期間	305	140	446

- (注) 1 国内業務部門は当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。
- 2 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
- 3 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間0百万円、当第1四半期連結累計期間0百万円)を控除して表示しております。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

役務取引は、そのほとんどを国内業務部門で占めており、主要な役務取引の内訳は次のとおりであります。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,488	18	1,506
	当第1四半期連結累計期間	1,597	18	1,616
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	307		307
	当第1四半期連結累計期間	315		315
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	503	17	520
	当第1四半期連結累計期間	498	18	516
うち信託関連業務	前第1四半期連結累計期間			
	当第1四半期連結累計期間	0		0
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	122		122
	当第1四半期連結累計期間	259		259
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	248		248
	当第1四半期連結累計期間	196		196
うち保護預り・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	21		21
	当第1四半期連結累計期間	20		20
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	68	0	69
	当第1四半期連結累計期間	64	0	65
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	315	5	321
	当第1四半期連結累計期間	323	11	334
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	81	4	86
	当第1四半期連結累計期間	80	9	90

(注) 国内業務部門は当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	2,336,544	44,084	2,380,629
	当第1四半期連結会計期間	2,364,824	37,788	2,402,613
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	1,052,116		1,052,116
	当第1四半期連結会計期間	1,132,336		1,132,336
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	1,275,046		1,275,046
	当第1四半期連結会計期間	1,218,521		1,218,521
うちその他	前第1四半期連結会計期間	9,381	44,084	53,466
	当第1四半期連結会計期間	13,966	37,788	51,754
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	34,305		34,305
	当第1四半期連結会計期間	95,767		95,767
総合計	前第1四半期連結会計期間	2,370,849	44,084	2,414,934
	当第1四半期連結会計期間	2,460,591	37,788	2,498,380

(注) 1 国内業務部門は円建取引、国際業務部門は外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

2 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

3 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

貸出金残高の状況

業種別貸出状況(末残構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	1,532,469	100.00	1,548,015	100.00
製造業	223,592	14.59	215,094	13.90
農業、林業	1,490	0.10	1,337	0.09
漁業	2,615	0.17	2,112	0.14
鉱業、採石業、砂利採取業	2,227	0.15	2,082	0.13
建設業	51,515	3.36	52,859	3.41
電気・ガス・熱供給・水道業	24,962	1.63	30,358	1.96
情報通信業	9,526	0.62	8,885	0.57
運輸業、郵便業	47,397	3.09	46,998	3.04
卸売業	110,963	7.24	105,487	6.81
小売業	111,744	7.29	105,282	6.80
金融業、保険業	32,456	2.12	37,899	2.45
不動産業	203,211	13.26	200,453	12.95
物品賃貸業	32,106	2.09	28,423	1.84
学術研究、専門・技術サービス業	3,522	0.23	2,991	0.19
宿泊業	9,826	0.64	9,467	0.61
飲食業	11,009	0.72	10,877	0.70
生活関連サービス業、娯楽業	31,403	2.05	30,432	1.97
教育、学習支援業	9,768	0.64	7,947	0.51
医療・福祉	85,322	5.57	89,003	5.75
その他のサービス	38,821	2.53	33,867	2.19
地方公共団体	194,725	12.71	224,670	14.51
その他	294,261	19.20	301,480	19.48
特別国際金融取引勘定分				
政府等				
金融機関				
その他				
合計	1,532,469		1,548,015	

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

連結会社のうち、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は提出会社1社であります。

信託財産の運用 / 受入状況(信託財産残高表)

資産				
科目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
現金預け金	32	100.00	32	100.00
合計	32	100.00	32	100.00

負債				
科目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
金銭信託	32	100.00	32	100.00
合計	32	100.00	32	100.00

(注) 元本補填契約のある信託については、前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の取扱残高はありません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題、研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。また、研究開発活動については該当ありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	500,000,000
計	500,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	218,500,000	同左	東京証券取引所 市場第1部	単元株式数は1,000株であり ます。
計	218,500,000	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当ありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当ありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当ありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年6月30日		218,500		25,000		6,563

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日である平成25年3月31日現在で記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,510,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 213,630,000	213,630	
単元未満株式	普通株式 2,360,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	218,500,000		
総株主の議決権		213,630	

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 当行	高知市南はりまや町 一丁目1番1号	2,510,000		2,510,000	1.14
計		2,510,000		2,510,000	1.14

(注) 1 株主名簿上は、当行名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1千株(議決権1個)あります。

なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含まれております。

2 当第1四半期会計期間末の自己株式数は、2,517,818株となっております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
現金預け金	284,676	325,547
コールローン及び買入手形	1,743	1,802
買入金銭債権	11,459	13,501
商品有価証券	419	614
金銭の信託	2,577	2,604
有価証券	² 782,127	² 784,735
貸出金	¹ 1,577,936	¹ 1,548,015
外国為替	1,490	2,509
その他資産	12,129	13,637
有形固定資産	41,491	41,581
無形固定資産	4,376	4,045
繰延税金資産	4,314	6,506
支払承諾見返	6,882	7,073
貸倒引当金	26,684	25,997
資産の部合計	2,704,941	2,726,176
負債の部		
預金	2,374,223	2,402,613
譲渡性預金	107,827	95,767
コールマネー及び売渡手形	24,814	29,087
借入金	38,805	37,035
外国為替	10	12
社債	7,000	7,000
その他負債	19,384	23,817
退職給付引当金	7,069	6,961
役員退職慰労引当金	12	8
睡眠預金払戻損失引当金	883	1,183
ポイント引当金	47	51
再評価に係る繰延税金負債	6,455	6,440
支払承諾	6,882	7,073
負債の部合計	2,593,417	2,617,051
純資産の部		
資本金	25,000	25,000
資本剰余金	6,563	6,563
利益剰余金	51,969	53,897
自己株式	1,372	1,374
株主資本合計	82,159	84,086
その他有価証券評価差額金	16,498	12,024
繰延ヘッジ損益	438	349
土地再評価差額金	10,640	10,613
その他の包括利益累計額合計	26,700	22,288
新株予約権	33	44
少数株主持分	2,629	2,707
純資産の部合計	111,523	109,125
負債及び純資産の部合計	2,704,941	2,726,176

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
経常収益	15,754	12,764
資金運用収益	8,926	9,035
(うち貸出金利息)	6,239	5,880
(うち有価証券利息配当金)	2,598	3,058
役務取引等収益	1,506	1,616
その他業務収益	4,278	753
その他経常収益	¹ 1,043	¹ 1,359
経常費用	18,176	9,043
資金調達費用	643	521
(うち預金利息)	421	330
役務取引等費用	321	334
その他業務費用	168	446
営業経費	7,063	6,769
その他経常費用	² 9,979	² 970
経常利益又は経常損失()	2,421	3,721
特別利益	2	1
固定資産処分益	2	1
特別損失	15	43
固定資産処分損	15	43
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	2,435	3,679
法人税、住民税及び事業税	103	946
法人税等調整額	1,181	109
法人税等合計	1,077	1,056
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	1,357	2,623
少数株主利益	17	73
四半期純利益又は四半期純損失()	1,374	2,549

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	1,357	2,623
その他の包括利益	1,055	4,376
その他有価証券評価差額金	962	4,468
繰延ヘッジ損益	83	88
持分法適用会社に対する持分相当額	9	3
四半期包括利益	2,413	1,753
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,419	1,835
少数株主に係る四半期包括利益	6	82

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
破綻先債権額	1,166百万円	1,075百万円
延滞債権額	63,663百万円	60,900百万円
3カ月以上延滞債権額	73百万円	2,566百万円
貸出条件緩和債権額	9,953百万円	7,680百万円
合計額	74,857百万円	72,223百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 2 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
	6,394百万円	6,816百万円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
貸倒引当金戻入益	百万円	159百万円
償却債権取立益	526百万円	360百万円

- 2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
貸倒引当金繰入額	4,492百万円	百万円
貸出金償却	423百万円	217百万円
株式等売却損	188百万円	15百万円
株式等償却	4,368百万円	351百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第

- 1 四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	767百万円	759百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	648	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当ありません。

3 株主資本の金額の変動に関する事項

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高(百万円)	25,000	6,563	48,898	1,365	79,095
当第1四半期連結会計期間末 までの変動額(累計)					
剰余金の配当			648		648
四半期純損失()(累計)			1,374		1,374
自己株式の取得				1	1
自己株式の処分			0	0	0
土地再評価差額金の取崩			9		9
当第1四半期連結会計期間末 までの変動額(累計)合計			2,013	0	2,014
当第1四半期連結会計期間末 残高(百万円)	25,000	6,563	46,884	1,366	77,081

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	647	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当ありません。

3 株主資本の金額の変動に関する事項

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高(百万円)	25,000	6,563	51,969	1,372	82,159
当第1四半期連結会計期間末 までの変動額(累計)					
剰余金の配当			647		647
四半期純利益(累計)			2,549		2,549
自己株式の取得				1	1
土地再評価差額金の取崩			26		26
当第1四半期連結会計期間末 までの変動額(累計)合計			1,928	1	1,926
当第1四半期連結会計期間末 残高(百万円)	25,000	6,563	53,897	1,374	84,086

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行グループは、一部で銀行業以外の事業を営んでおりますが、それらの事業は量的に重要性が乏しく、報告セグメントは銀行業単一となるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は次表には含めておりません。

前連結会計年度(平成25年3月31日)

科目	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
有価証券	773,746	773,922	176
貸出金	1,577,936		
貸倒引当金	26,235		
	1,551,700	1,567,122	15,421
預金	2,374,223	2,375,609	1,386
譲渡性預金	107,827	107,843	16
社債	7,000	7,176	176
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	457	457	
ヘッジ会計が適用されているもの	(865)	(865)	
デリバティブ取引計	(407)	(407)	

当第1四半期連結会計期間(平成25年6月30日)

科目	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
有価証券	776,349	776,530	181
貸出金	1,548,015		
貸倒引当金	25,592		
	1,522,422	1,533,169	10,746
預金	2,402,613	2,403,911	1,298
譲渡性預金	95,767	95,789	22
社債	7,000	7,141	141
デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されていないもの	53	53	
ヘッジ会計が適用されているもの	(377)	(377)	
デリバティブ取引計	(324)	(324)	

(注) 1 有価証券の時価の算定方法

株式は取引所の価格、債券は日本証券業協会の公表する価格等を時価としております。上場投資信託は取引所の価格、非上場投資信託は投資信託委託会社の公表する基準価格等を時価としております。

自行保証付私募債は将来キャッシュ・フローを見積り、市場金利に内部格付及び担保等を反映した信用コスト率を加えた割引率で割り引いた額を時価としております。ただし、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先の発行する私募債については、担保及び保証による回収見込み額等を時価としております。

なお、満期保有目的の債券で時価のあるもの及びその他有価証券で時価のあるものに関する注記事項については、「(有価証券関係)」に記載しております。

2 貸出金の時価の算定方法

貸出金は将来キャッシュ・フローを見積り、市場金利に内部格付及び担保等を反映した信用コスト率を加えた割引率で割り引いた額を時価としております。外貨貸出金については、変動金利であり、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が融資実行後大きく異ならない限り時価と帳簿価額が近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当座貸越は、返済期限を設けているものを除き、帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、担保及び保証による回収見込み額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は四半期連結決算日(連結決算日)における四半期連結貸借対照表(連結貸借対照表)上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

3 預金及び譲渡性預金の時価の算定方法

要求払預金については、四半期連結決算日(連結決算日)に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価については、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。外貨預金及び非居住者円預金については、約定期間が短期間であり、時価と帳簿価額が近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

4 社債の時価の算定方法

当行発行の劣後特約付社債の時価は、市場価格によっております。

5 デリバティブ取引

デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引関係)」に記載しております。

(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
国債	9,873	10,020	146
地方債	1	1	0
短期社債			
社債	2,900	2,929	29
その他			
合計	12,774	12,951	176

当第1四半期連結会計期間(平成25年6月30日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
国債	9,882	10,040	157
地方債	1	1	0
短期社債			
社債	2,900	2,924	24
その他			
合計	12,784	12,965	181

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額 (百万円)
株式	37,908	41,782	3,874
債券	632,911	651,034	18,123
国債	388,547	400,026	11,478
地方債	76,036	78,399	2,363
短期社債			
社債	168,327	172,608	4,281
その他	65,031	68,153	3,122
合計	735,851	760,971	25,119

当第1四半期連結会計期間(平成25年6月30日)

	取得原価 (百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額 (百万円)
株式	38,205	44,667	6,462
債券	623,265	634,534	11,268
国債	361,325	367,960	6,635
地方債	67,954	69,754	1,799
短期社債			
社債	193,985	196,819	2,833
その他	83,808	84,362	553
合計	745,279	763,564	18,284

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第1四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、株式1,148百万円であります。

当第1四半期連結累計期間における減損処理額は、株式351百万円であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、四半期連結会計期間末前(連結会計年度末前)1カ月の平均の時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合は、全銘柄を著しい下落と判定し、30%以上50%未満下落した場合は、発行会社の信用リスク(自己査定における債務者区分・外部格付)を勘案し、過去の株価動向及び業績推移等により判定しております。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

通貨関連取引

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物			
	通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	69,389	49	49
	為替予約	47,779	407	407
	通貨オプション			
	その他			
合計			457	457

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等については、上記記載から除いております。

当第1四半期連結会計期間(平成25年6月30日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物			
	通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	75,164	55	55
	為替予約	68,872	2	2
	通貨オプション			
	その他			
合計			53	53

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等については、上記記載から除いております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額(は1株当たり四半期純損失金額)及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額 (は1株当たり四半期純損失金額)	円	6.36	11.81
(算定上の基礎)			
四半期純利益 (は四半期純損失)	百万円	1,374	2,549
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る四半期純利益 (は普通株式に係る四半期純損失)	百万円	1,374	2,549
普通株式の期中平均株式数	千株	215,880	215,841
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 金額	円		11.79
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円		
普通株式増加数	千株		253
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式で、前連結会計年度末から重 要な変動があったものの概要			

(注) なお、前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がなく、また、1株当たり四半期純損失となっているため記載しておりません。

2 【その他】

該当ありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8 月 9 日

株式会社四国銀行
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 荒 井 憲 一 郎

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤 井 義 博

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社四国銀行の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社四国銀行及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれておりません。